



アゲハチョウの幼虫は、どうやって育てるの

アゲハチョウの食草を探そう

チョウの幼虫は、種類によって、それぞれ、えさとして食べる植物の種類が決まっています。それを食草といいます。食草を知っていれば、チョウの卵や幼虫を見つけるのも簡単です。チョウは、必ず、食草の上に卵を産むからです。

アゲハ、クロアゲハ、モンキアゲハなどの仲間は、カラタチやミカン、サンショウの葉が食草です。キアゲハは、ニンジン、ミツバ、セリ、パセリの葉が食草ですが、ミカンやカラタチの葉も食べます。

アゲハの幼虫の飼い方のコツ

幼虫を庭などで見つけたら、幼虫がついていた植物が食草ですから、毎日新しい食草を、小枝ごと取ってきてあたえればよいでしょう。取ってきた葉は、農薬などがついていことがあるので、よく洗い、水をふき取り、飼育ケースに入れます。新しい葉に幼虫が移ったら、古い葉を取り出します。食べ残しやふんは、毎日きれいにします。

だっ皮をくり返して、緑色の体に大きな目玉と黒いしま模様がついた幼虫になると、次は、さなぎになります。幼虫が葉を食べずに動き回り、べっとりしたふんをするようになったら、さなぎになるときの木の枝を、飼育ケースに入れてやります。やがて、枝やケースの内側に糸をかけて、さなぎになります。10～15日たつと、羽化してアゲハチョウが出てきます。（監修・中山 周平）

